

KIC 統一試験の報告 —学習意欲を高める漢字試験への模索—

大 橋 真貴子

【要旨】

「KIC 統一試験」とは、各学期 1~2 回実施され、『中・上級学習者のための漢字と語彙：KANJI IN CONTEXT』から出題される問題を、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの学生が一斉に受ける漢字試験である。

2014-15 年度から年間カリキュラムに組み込まれることとなり¹⁾、筆者は現在に至るまで問題作成を担当し、教師と学生の声を聞きながら試験形式を幾度か変更してきた。本稿では、この3年間の試験方式と結果を報告する。また、学生の漢字学習意欲を高めるために、どのような試験形式が効果的なのかについて考察する。

【キーワード】

漢字自主学習の継続・促進、試験形式・範囲・難易度と学習意欲との関連性

1 KIC 統一試験の開始理由

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（以下略称にてセンターと表記）の学生は、SKIP（Special Kanji Intensive Program）によって、10ヶ月間で常用漢字（2136字）を計画的かつ自主的に学習することとなっている。しかしながら、ここ数年、SKIP 修了者は減少傾向にある。2012-13 年度の修了者は 42 名中 16 名、13-14 年度は 38 名中 20 名であったが、2 名の学生が全く SKIP をしなかった。修了できなかった学生に理由をたずねると「SKIP は授業外の時間を使って自分で勉強しなければならないが、授業の予習復習に追われて SKIP をしなくなったら、どんどんスケジュールよりも遅れていき、やる気がなくなってしまった」という答が多かった。また、教師側からは「専門の授業が始まる 3 学期になっても、一部の学生に基本的な漢字力がついていない」と嘆く声がよく聞かれるようになった。

そこで、13-14 年度末の職員会議で、自習意欲を高めるためにレギュラープログラムにおいて定期的に漢字試験を行うことが決まった。14-15 年度から始められ、『中・上級学習者のための漢字と語彙：KANJI IN CONTEXT』（The Japan Times、2013 年。以下略称にて KIC と表記）から問題が出されること、また、学生全員が同じ時間にセンターで受験することから、「KIC 統一試験」（以下統一試験）と呼ばれている。

2 試験形式

本章では、14-15年度から3年間実施した統一試験の概要を説明する。

2-1 日程

統一試験の場所、時間、曜日などは事前に掲示され、各クラスでも告知される。

1学期は1回、2～4学期は2回ずつ、計7回試験は実施される。1～3学期は、金曜日の午後に、午前のクラス（1学期は文法クラス、2～4学期はIJクラス）²の2組ずつが合同で同じ教室で受ける。4学期だけは、各IJクラスで、担当教師が決めた日時に試験が行われる。クラスによって試験日時は多少異なるが、同じ週に実施されることになっている。試験問題も方法も全クラス共通である。

2-2 出題範囲

KICは7つの水準、156の回に分かれている（例えば、第1水準には1～11回、第2水準には12～18回が含まれる）³。学生は年間スケジュールに従って一日1～3回分の漢字を勉強する。各統一試験の範囲は、実施日の約1週間前の時点で学生が勉強し終わっていない回数であり、約200の基本語を含む⁴。例えば、17年1月24日に行われた統一試験では、範囲が80～90回、含まれる基本語は210語であったが、それはスケジュール上1月16日までに学習することになっていた。

一方で、試験範囲対象外の回もある。例えば、16-17年度では、統一試験第4回目の範囲は80～90回、5回目は103～111回であり、91～102回は試験範囲対象外であった。このようにした理由は、統一試験の目的が「到達度を判定するもの」というよりは「自主学習の継続・促進」であるため、全部の回を範囲にする必要はないと考えたからである。また、後述するが、学生への過度の負担を減らすために1回の試験で勉強する語彙数を200前後に絞るためでもある。

問題形式は、第1～3回統一試験はひらがなから漢字を書く問題、漢字の読み方を書く問題、意味を書く問題の3種類であり（それぞれの問題の全体に占める割合は、読み25%、意味50%、書き25%）、第4回以降は読み方と意味のみを問う試験となる（読み問題50%、意味50%）。出題範囲と問題形式は、事前に掲示板やクラスで告知される。

2-3 試験当日の流れ

1. 各教室に試験監督の教師が1名入り、試験用紙を配布する。
2. 全員が答案を書き終わったことを確認した後、解答を配布する。学生はそれを見ながら、自分で意味と読み方を採点する。漢字を書く問題に関しては、試験監督は学生を指名して白板に書かせ、学生が間違いやすい点、例えば、「はね」や「とめ」に注意

を払いながらチェックする。それを見ながら学生は自己採点を行う。

3. 答案用紙回収後、試験は終了となる。午前のクラスの担当教師が自分の学生の答案を試験監督から受け取って再チェックをする。
4. 担当教師は学生の点数を記録すると同時に、不合格の学生に、翌週の金曜日までに再試験をうけるよう連絡をする。

2-4 採点方法と合格点

14-15年度から2年間は、熟語を漢字で書く問題の場合、一文字正答であれば0.5点加点した。しかし、16-17年度以降は文字数にかかわらず1問1点とし、熟語の場合は一文字でも間違えたら0点にすることとした。これにより、読み、意味、書き、どの問題も1問1点となった。

合計点の8割に満たない点数（50点満点なら40点未満、100点満点なら80点未満）だった学生は、自分で勉強をし、都合のいい時間に同じ問題の試験を再び受けなければならない。その際の合格水準も8割以上である。

3 出題の意図

統一試験の問題はWebKICの文脈クイズ機能によって作成されている⁵。本章では、漢字を書く問題、読み方を答える問題それぞれの出題意図について説明する。

3-1 漢字を書く問題

第1～3回統一試験では、漢字を書く問題を含む。これは、SKIPでも第3水準（中級日本語コースで一般的に学習されると考えられる漢字。1回から99回）までの単語は漢字で書けなければならないとしているからである。

学生のほとんどがコンピュータで宿題をする時代に、漢字を手で書かせる試験に意味があるのかという声がある。書けなくても読み方や意味が分かれば、専門書や書類を理解するのに十分だというのである。しかし、学生が卒業後どのような道を選ぶにしても、日本語に接している限り、漢字を使ってメモぐらいはとるであろう。それならば第3水準までの漢字は書けるようになってほしい。また、手で書くことにより、漢字に接する時間も長くなって形を認識しやすくなる、そうすれば意味や読みの理解も促進されるであろうという考えから、統一試験では開始当初から漢字を書かせる問題を入れている⁶。

学生によっては書くことに積極的で、14-15年度に「手を動かすことによって漢字や単語が覚えられるので、書く問題が毎回あったほうがよかった」というフィードバックがあった。一方で、後述するが、書くことへの抵抗をしめす学生もおり、検討が必要である。

3-2 意味を書く問題

統一試験開始当初から意味を書く問題を入れていたが、16-17年度第4回の試験から意味を書く問題を入れないこととした。これは教員やSKIP採点者から「英語が母語ではない学生にとって負担が大きい」「KICに書いてある英語以外を書いた場合、それが正しいかどうかを英語ノンネイティブの教師が判断するのは難しい」「学生に日本語で考えるように言っているにもかかわらず、英語の意味を書かせるのはおかしい」という意見が出たからである。

しかし、16-17年度の4回目以降の試験監督をした教師から「読み方は書けるが、意味を聞いても答えられない学生がいる」という指摘があった。また、学生からも「読み書きよりも、漢字を見て意味が分かったほうが役に立つので、意味を書く問題を入れてほしい」という意見もある。これも検討が必要であろう。

4 試験範囲・合格水準・再試験の趣旨

15-16年度以降、1回の統一試験の範囲に含まれる単語数を200前後としているが、14-15年度の試験では、学生が試験のために勉強しなければならない語数を考慮しなかった。この影響が最も大きかったのは第6回試験で、56名中33名が不合格となった。この試験のために学生が勉強しなければならない語は584あり、しかも、その全てがKICの第5水準の語彙(上級の日本語コースでしばしば現れるが一般的とは考えられない漢字)であった。このため「卒業発表の準備に迫られる時期に、あまり目にしない漢字を勉強することが大変負担だった」との声が学生から挙がることとなった。

この教訓をふまえ、1回の試験の語数を200前後とすることとした。また、第5水準以上の単語が試験範囲となる場合は180前後とし、目にする機会が比較的多く、どの専門分野の学生も知っていたほうがよいと思われる語を出題している。

合格水準を出題数の8割としたのは、統計学的な根拠があるわけではなく、既に学習した語彙の試験であり、出題範囲も絞ってあるので、8割できて当然だという主観的な判断に基づいている。また、高めの水準を提示することによって、勉強しなければ合格できないという危機感を与える意図もある。

再試験の問題は1度目の試験と同じ問題である。別の問題にした場合、再試験のための勉強時間は長くなる。その分定着率は高くなるかもしれないが、もともと漢字学習に時間がかかる学生にとって負担は増え、受験率が下がるという懸念があるため、同じ問題にしている。

過去3年間の出題範囲、正解率、合格者数、再試験受験者数をまとめたデータ(稿末参考資料4を参照)を見ると、15-16年度以降は、平均点が80%以上、合格者の割合も80%以上、また、不合格の学生のほとんどが再試験を受けて合格していることが分かる。

5 試験のデータからの考察

統一試験の目的は「漢字自主学习の継続・促進」であるが、本章ではこの観点から、これまでの統一試験を考察する。

プラスの面からみると、統一試験開始後、SKIP 修了者の増加が見られた。修了者の割合は、開始前の 12-13 年度が 38.0%、13-14 年度が 52.6%であったが、開始後の 14-15 年度は 64.2% (56 名中 36 名修了)、15-16 年度は 75.9% (54 名中 41 名)、16-17 年度は 66.7% (45 名中 30 名) であった。また、SKIP を途中でしなくなった学生も試験前は勉強しており、統一試験が学習の動機になっていると言えよう。

ただ、どの年度でも、日本語レベルに関係なく、毎回再試験を受ける学生がいる。一度目の試験で合格できない理由として、日本語レベルが中級前半と考えられる学生は、日々の予習復習に追われて SKIP や試験勉強の時間がとれない、漢字習得に時間がかかるなどを挙げている。こうした学生は、一度目の試験では不合格でも再試験で合格できればいいと思っていることが多い。

一方、中級後半から上級の学生には、日常会話は全く不自由なく複雑な文型もある程度使いこなすことはできるが、熟語や専門用語などをほとんど知らないという傾向が見られる。彼らにとって、今まで目にしたことがない、いわゆる「硬い」語彙を覚えるのが困難だと思われる⁷。また、レベルに関係なく、「へん」と「つくり」の形や位置関係を認識すること、また、目にした形を自分の手で再構成することが困難であるため、一度目で合格できない学生も数名いる。16-17 年度の学生からも「漢字を書く練習をするのは大変負担であった。読みと意味の問題だけの試験を受ける学生と、書く問題も含めた試験を受ける学生とに分けてほしい」という意見が出されている。

不合格が続く学生の中には SKIP を続けることや統一試験受験をあきらめてしまう学生もおり⁸、そのような事態は漢字自主学习の継続と促進という統一試験の目的に反する。こうしたことを防ぐために、彼らに漢字の勉強方法を指導する、クラスで漢字学習やクイズを行う、といった支援が考えられる。それ以外の解決策としては、一つの試験に読み、書き、意味の問題をそれぞれどのぐらいの割合にすれば学生の抵抗感や負担が減らせるのかを考慮することが挙げられる。

6 17-18 年度の試験方式

以上の点を踏まえ、17-18 年度に実施する統一試験に関して、以下のことを考えている。

6-1 試験の日程

例年通り 7 回行う予定である。ただし、これまでは金曜午後に行っていた試験を、17-18

年度は月曜午後に行うこととした。また、試験前の1週間はSKIPで新しい漢字を勉強しなくてもよいとし、学生が復習(試験勉強)できるようにした。このように日程に配慮したのは、統一試験が行われる週は学生も授業に集中できないことが多く、特に16-17年度、授業中に隠れて試験勉強をしたり、当日の午前の授業を休んで勉強をしたりする学生が散見されたからである。月曜日に試験を行うことによって、学生は週末に落ち着いて勉強できるようになり、授業に影響を与えることもなくなると考えている。

6-2 試験範囲、合格水準、再試験

17-18年度の7回の試験では、KIC全ての回を試験範囲に含むことにした。毎年度、学生から「出題範囲対象外の回が無いほうがいい」という意見が出されているからである。試験範囲は、前回試験範囲の次の回から試験日の前々週の木曜日までに勉強した回、となる。例えば、第1回目は1~39回、第2回目は40~58回が試験範囲である。

この変更により、1回の統一試験のために勉強しなければならない語数は、これまでの約200から350に増加する。これに伴い、合格水準を8割から6~7割に下げたほうがいいのかどうかを検討する必要性が出てきた。また、第7回試験に関しては、学生は第5水準以上の漢字(上級の日本語コースでしばしば現れるが一般的とは考えられない漢字)を600字以上勉強しなければならないことから、この試験のみさらに合格水準を下げることも検討が必要である。

再試験は1度目の試験と同じ問題であるが、毎年度学生から「できない漢字を勉強するいい機会になるので、再試験は違う問題にしてはどうか」という意見が出される。こうした学生の意欲を反映して再試験を違う問題にするか、または学生の負担を考慮して同じ問題にするかも検討しなければならない。

7 まとめ

3学期や4学期のある日、以前は読めなかった漢字が理解できた時、ようやく学生はこれまでの積み重ねの意義が認識できる。しかし、こうしたことはなかなか起きず、学習意欲を維持することは難しい。よく耳にする学生の声は「漢字を勉強しても、目にしなくなるとすぐ忘れてしまう。毎日毎日勉強しても意味があるのだろうか」。

統一試験は、準備期間も含め、忘れかけていた漢字の形・音・意味を再認識し、定着を促す機会だと考えている。また、合否があることによって、学生の学習促進剤ともなっている。学生もこうした目的を理解しており「試験は緊張したが、復習するいい機会だった」というコメントをもらうことが多い。こうした機能が効果的に働くよう、今後も学生や教員の意見を聞きながら、問題形式、難易度、日程を調整していく必要があると考えている。

注

- 1 アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターと年間コースについては、本年報所収の大竹弘子 (2017) [「2016-17 年度カリキュラム報告 —アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの中上級日本語集中教育—」](#) を参照のこと。
- 2 それぞれのクラスについては、[大竹 \(2017\)](#) を参照のこと。
- 3 KIC の目的や構成については、青木惣一 (2015) [「『改訂新版 Kanji in Context』開発の基本コンセプトと想定する学習手順」](#) を参照のこと。
- 4 「基本語」とは KIC で赤字で書かれており、「その漢字の読みをマスターする上で必要不可欠であり、かつ基本的と考えられる語」である。例えば、「責」では「責任」「責める」「責務」の4語が語例として KIC に記載されているが、基本語は前の2語である。
- 5 14-15 年度は、各単語を単独で提示して読み方と意味を問う、あるいは読み方と意味を提示して漢字で書かせるという形式のテストであった。15-16 年度からは文脈に提示されている漢字の読み方や意味を問う、または語を漢字で書く形式となった。WebKIC の詳細については、秋澤委太郎 (2015) [「『Kanji in Context』を Web から使う —長期的な使用に耐える多目的教育リソースの構築とその活用例—」](#)、及び、秋澤委太郎 (2016) [「WebKIC の改良とそれに対する学生の反応」](#) を参照。稿末に実際の問題例と解答例を掲載した (参考資料 1~3)。
- 6 書きと意味の相関関係、つまり、漢字が書けるようになれば、意味が理解しやすくなる、または読めるようになる、ということを明らかにした研究を見つけることはできなかった。ただ、漢字の形態は、視覚的な表象だけでなく、運動感覚的な表象としても記憶される (漢字を思い出す時に空書をする) という研究 (佐々木・渡辺 1993)、非漢字圏日本語学習者、特に初中級では、漢字の小さな構成要素を用いた形態連想によって記憶することが多いという研究 (伊藤・和田 1999)、また、漢字の構成要素から音韻的な手がかりや意味的な手がかりを得て (例えば「晴」は「青」「日」「セイ」が手がかりとなる) 記憶することもあるという研究 (加納・清水他 1989)、などから、書く練習をする過程が記憶を促進する、ということが言えるのではないだろうか。
- 7 学生のなかには「漢字は、書けなくても読めなくても意味さえ分かればいい」という考えを強く持つ学生もおり、彼らは合否をそれほど気にしない傾向にある。
- 8 SKIP を続けない学生のなかには、自分の方法で漢字を勉強する学生もいる。このような学生のほとんどが統一試験で合格している。

参考文献

- アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター『中・上級学習者のための漢字と語彙 [改訂新版]』ジャパンタイムズ社 2013年
- 伊藤寛子・和田裕一 (1999)「外国人の漢字の記憶検索における手がかり：自由放出法を用いた検討」『教育心理学研究』47(3) pp.346-353
- 加納千恵子 (2000)「中上級学習者に対する漢字語彙教育の方法」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』15 pp.35-46
- 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・阿久津智・石井恵理子・海保博之・出口毅 (1989)「自由放出法による外国人の漢字知識の分析」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』4
- 加納千恵子・魏娜 (2017)「中上級学習者のための音声を利用した漢字語彙テストの試み—上級漢字力診断テストの開発に向けて—」『グローバルコミュニケーション教育センター 日本語教育論集』32 pp.47-64
- 佐々木正人・渡辺章 (1993)「『空書』行動の出現と機能—表象の運動感覚的な成分について」『教育心理学研究』31 pp.273-282

参考資料

1 KIC 統一試験問題例 1 (漢字を書く問題)

KIC(基本語) 第51回 ~ 第61回 文脈クイズ											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報^{じょうほう}を <u>せい</u> <u>かく</u> <u>に</u>₁ 伝^{つた}え^る ・ 彼^{かれ}の <u>てい</u> <u>あん</u>₂ <u>に</u> <u>は</u> <u>だれ</u> <u>も</u> <u>賛</u> <u>成</u> <u>し</u> <u>な</u> <u>か</u> <u>つ</u> <u>た</u>。 ・ <u>じゅ</u> <u>けん</u>₃ <u>は</u> <u>べん</u> <u>きょう</u> <u>じゅ</u> <u>けん</u> <u>せん</u> <u>そう</u> ・ 鉄道^{てつどう}会社^{がいしや}は <u>た</u> <u>え</u> <u>ず</u>₄ <u>りやく</u> <u>の</u> <u>あん</u> <u>ぜん</u> <u>に</u> <u>つ</u> <u>と</u> <u>め</u> <u>て</u>₅ <u>い</u> <u>る</u>。 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20px; text-align: center;">1</td><td style="width: 60px; height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2</td><td style="height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">3</td><td style="height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">4</td><td style="height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">5</td><td style="height: 20px;"></td></tr> </table>	1		2		3		4		5	
1											
2											
3											
4											
5											

2 KIC 統一試験問題例 2 (読みを書く問題)

<p>①問題が漢字で書かれている場合は、その読み方を書きなさい。問題がひらがなで書かれている場合は、漢字で書きなさい。必要ならば、送り仮名をつけなさい。(解答欄に書くこと)</p> <p>②_____の言葉の意味を英語で書きなさい。(問題文の横に書くこと)</p>													
KIC(基本語) 第51回 ~ 第61回 文脈クイズ													
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>憲</u> <u>法</u>₁ <u>を</u> <u>改</u> <u>正</u> <u>す</u> <u>る</u> ・ 砂^{すな}法^{はま}で <u>貝</u>₂ <u>を</u> <u>拾</u> <u>う</u> ・ 海^{うみ}の底 <u>海</u> <u>底</u>₃ ・ リスは冬の間、食料^{じきりょう}を穴^{あな}に <u>蓄</u> <u>え</u> <u>て</u>₄ <u>お</u> <u>く</u>。 ・ <u>蒸</u> <u>し</u> <u>暑</u> <u>い</u>₅ <u>夜</u> 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20px; text-align: center;">1</td><td style="width: 60px; height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2</td><td style="height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">3</td><td style="height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">4</td><td style="height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">5</td><td style="height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">6</td><td style="height: 20px;"></td></tr> </table>	1		2		3		4		5		6	
1													
2													
3													
4													
5													
6													

3 KIC 統一試験解答例

・ 回答を書いた時と異なる色のペンを使って、採点しなさい。
 ・ 1問1点です。漢字を書く場合も読み方を書く場合も、一字でも間違えたら0点となります。
 ・ 100点満点です。80点未満は再試験になります。

KIC(基本語) 第51回 ~ 第61回 文脈クイズ

<ul style="list-style-type: none"> ・ 憲法₁を改正する ・ 砂浜^{すなはま}で貝^{ひらう}₂を拾う ・ 海の底 海底₃ ・ リスは冬の間、食料^{じゆふ あいだ しよくじゆ あら}を穴に蓄えて₄おく。 ・ 蒸し暑い₅夜 	<ul style="list-style-type: none"> 1 けんぽう《constitution》 2 かい《shellfish》 3 かいてい《bottom of the sea》 4 たぐわえて《蓄える: store, save, reserve》 5 おしあつい《muggy》
---	--

4 KIC 統一試験結果集計

年度	実施日	試験範囲(回)	語数	問題数(問)	読み(問)	意味(問)	書き(問)	満点	合格点	平均点	受験者数	合格者数	再試験受験者数(うち合格者数)
14-15	10月10日	25~40	340	44	8	15	21	44	35	36.1	56	37	19 (19)
	11月21日	50~60	197	50	20	20	10	50	40	41.3	55	41	15 (14)
	12月12日	70~80	199	50	20	20	10	50	40	41.3	56	40	16 (11)
	1月30日	85~98	244	50	25	25		50	40	44	56	47	8 (7)
	2月20日	99~112	224	50	25	25		50	40	44.3	56	46	10 (8)
	4月7・8日	118~137	584	50	25	25		50	40	31.1	56	23	33 (26)
	5月19・20日	138~156	404	50	25	25		50	40		54	29	23 (14)
15-16	10月9日	23~33	233	50	16	16	18	50	40	45.4	55	50	5 (4)
	11月8日	49~59	193	50	16	16	18	50	40	42.2	55	40	15 (15)
	12月9日	63~73	209	60	16	16	18	60	48	53.4	54	50	8 (6)
	1月29日	80~90	210	50	25	25		50	48	43.6	52	43	10 (9)
	2月20日	99~112	224	60	30	30		60	48	54.1	50	41	7 (5)
	4月13・14日	95~107	208	60	30	30		60	48	51.3	53	37	16 (13)
	5月18・19日	126~133	242	60	30	30		60	48	51.8	53	42	10 (7)
16-17	10月7日	23~32	219	100	25	50	25	100	80	86.9	45	37	9 (8)
	11月18日	51~61	197	100	25	50	25	100	80	84	45	34	11 (9)
	12月9日	65~75	203	100	25	50	25	100	80	86.3	45	36	9 (6)
	1月27日	86~92	132	50	25	25		50	40	42.4	45	34	11 (8)
	2月24日	103~111	149	50	50			50	40	44.6	44	38	6 (4)
	4月12・13日	130~135	184	50	50			50	40	38.4	43	27	16 (15)
	5月18・19日	150~156	142	50	50			50	40	41.9	43	35	8 (4)